

外為マンスレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2015/12/01

欧州中銀とFRBの動向に関心集中

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	➔	対先進国通貨での豪ドル買いは続くか 予想レンジ: 86.500 ~ 92.500 円	2 - 3
NZドル/円	➔	まずはRBNZの姿勢を確認 予想レンジ: 78.000 ~ 83.000 円	4 - 5
ランド/円	➔	先進国の動きを見守る 予想レンジ: 8.300 ~ 8.900 円	6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

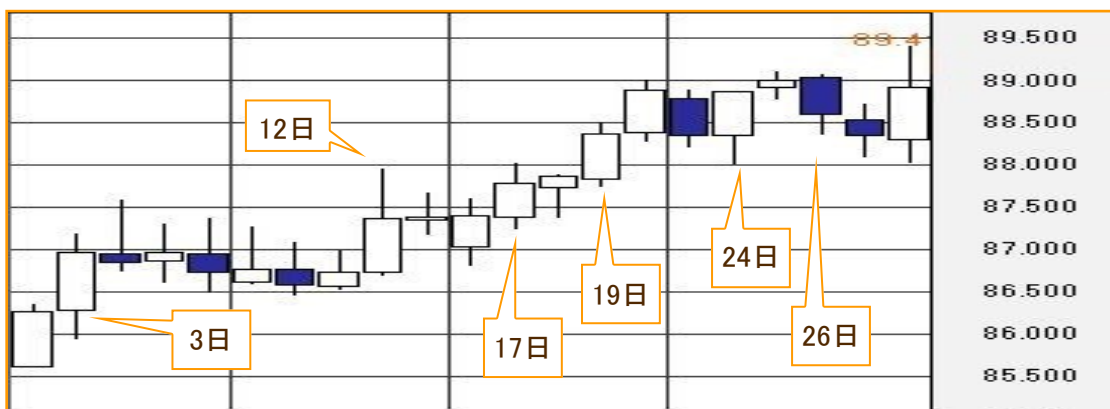
Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 11月の推移

AUD/JPY

11月の豪ドル/円相場は85.620～89.412円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約3.3%の上昇(豪ドル高・円安)となった。

月初の段階では残っていた豪利下げ観測が、豪中銀(RBA)の声明やその他指標の好結果などをを受けて後退すると、豪ドルはジリジリと上昇。特に、欧州中銀(ECB)の追加緩和期待が強い中でユーロから豪ドルへの資金流入が目立っており、ユーロ/豪ドル主導で豪ドル高が進んだ格好だ。また、この追加緩和期待は一時下落していた主要国株価の押し上げ要因にもなっており、中旬以降は特に豪ドル/円が上昇しやすい環境だったと言える。トルコとロシアの関係悪化など、リスク要因の浮上も一時見られたが、これを受けて原油価格が上昇した事が下支え要因となった。



四本値

OPEN	85.622
HIGH	89.412
LOW	85.620
CLOSE	88.928

3日	豪中銀(RBA)は政策金利の据え置きを発表。声明では、「豪ドルは主要商品価格の大幅安に適切に反応している」「政策金利は変更しない事が適切と判断」「経済の緩やかな拡大が続いている」「インフレ見通しが追加の政策緩和の余地を与える可能性」「インフレは今後1-2年間、目標と一致すると見られているが、以前の予測より低い」とした。一部に利下げ期待が広がっていたため、発表前には85.947円まで一時値を下げていたが、この発表後に豪ドルは上昇。さらにリビアで武装勢力が港を封鎖したとの報道や、ブラジルの石油事業関連の労働組合がストに入った事を受けてNY原油が上昇した事も追い風となった。
12日	豪10月雇用統計が失業率5.9%(市場予想:6.2%)、就業者数5.86万人増(同:1.50万人増)、正規雇用4.0万人増(前月1.39万減→1.04万減)、非常勤雇用1.86万人増(同0.89万増→0.96万増)、労働参加率65.0%(予想:64.9%)と市場予想よりも大幅に良好な結果となった。これを受けて豪ドル/円は87.90円台まで上昇。しかし、その後NY原油が軟調に推移した事から、豪ドル/円は上げ幅を縮めた。
17日	RBA議事録において、「経済見通しの改善を踏まえ、金利を据え置いた」「インフレは抑制されており、追加緩和の一定の余地がある可能性」「非常に低い」金利が家計消費と住宅建設を支援している」などとあり、依然として追加緩和の余地こそあるものの、目先の追加緩和観測につながる記述がなかった事から、発表後の豪ドル/円は小幅に上昇。その後、欧州市場以降に再び買い優勢となり、一時88.021円まで値を伸ばした。
19日	日銀が金融政策据え置きを発表すると一時円買い優勢となる場面も見られたが、主要国株価が堅調な中で豪ドル/円は上昇。NY市場では、全般的なドル売りの流れの中で豪ドル/米ドルが上昇した事に連れ高した。
24日	トルコが領空侵犯したロシア戦闘機を撃墜した事が報じられるとリスク回避の動きが強まり、豪ドル/円は急落。しかし、ステーブンスRBA総裁が「必要であればインフレ率は緩和のための障害にならない」としながらも「金利引き下げは以前ほど刺激効果がない」と述べた事を受けて下げ幅を圧縮した。その後、トルコ・ロシア間の関係緊迫化懸念からNY原油が上昇する中、豪ドル/円はジリ高となった。
26日	豪7-9月期民間設備投資が前期比-9.2%(予想:-2.9%)と過去最大の落ち込みを記録。これを受けて豪ドル/円は大きく値を下げた。

AUD/JPY

日経平均

OPEN	18827.11
HIGH	19994.05
LOW	18641.22
CLOSE	19747.47

NYダウ平均

OPEN	17672.62
HIGH	17977.85
LOW	17210.43
CLOSE	17719.92

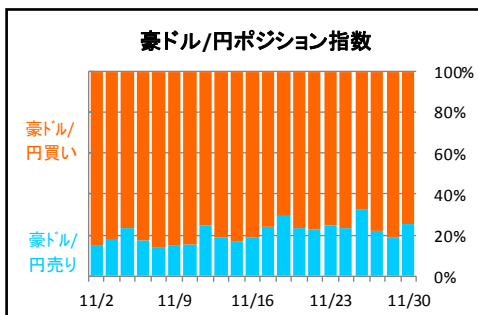
上海総合指数

OPEN	3337.578
HIGH	3678.273
LOW	3302.183
CLOSE	3445.405

豪10年債利回

OPEN	2.627%
HIGH	2.986%
LOW	2.616%
CLOSE	2.859%

11月のポジション動向



12月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・中国11月財新製造業PMI(1日)
- ・RBAキャッシュターゲット(1日)
- ・豪7-9月GDP(2日)
- ・豪10月貿易収支(3日)
- ・豪10月小売売上高(4日)
- ・米10月雇用統計(4日)
- ・中国11月貿易収支(8日)
- ・豪11月雇用統計(10日)
- ・中国11月小売売上高(12日)
- ・中国11月鉱工業生産(12日)
- ・RBA議事録(15日)
- ・日銀金融政策決定会合(17-18日)
- ・主要国株価、国際商品価格

12月の見通し

11月の豪ドル/円は1カ月を通して堅調な推移となった。RBAの声明からハト派色が薄らぐ一方、欧州の追加緩和の思惑からユーロ売り・豪ドル買いが活発化した事などが追い風となった。

1日にRBAが発表した声明文の内容は11月とほぼ変更がなかったが、追加利下げに一步踏み出した訳ではない点が依然として「豪ドルを買っても良い要因」とみなされた模様で、発表後の豪ドルは上昇する様子が見られている。つまり、11月に豪ドルが買われた「豪州サイドの要因」は維持されていると言える。今後の焦点は、引き続きユーロを中心とする先進国通貨から豪ドルに資金が流れるための「欧州他、先進国サイドの事情」が維持されるかどうかになるだろう。

注目点は、ECBの追加緩和が実施されるかどうか、そして実施された場合は「その後についてドラギECB総裁がどう語るか」、また米国の利上げの有無と声明の内容などになると見る。ECBが追加緩和を決定した場合、それが市場の期待に応えられる規模であり、かつさらなる追加緩和が示唆されるようだと、対ユーロを中心に豪ドル買いが入り続ける相場が続き、豪ドル/円には一段高となる余地があると考えられる。しかし、ECBの追加緩和の規模が期待外れに終わったり、また緩和の打ち止め感が強い場合は、ユーロに買戻し圧力が掛かり、豪ドルには11月の上昇分の剥落リスクがあると言えそうだ。また、米FOMCに関しても、利上げの有無や声明、経済・金利見通し、米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長の会見とトータルし、米国の金融引き締めペースが想定よりも早いとみなされれば、主要国株価が圧迫され、豪ドルには重石となろう。一方、米国の利上げのペースは「あくまで経済データ次第」の「ゆっくりなもの」になる事が強調され、主要国株価が堅調さを維持すれば、豪ドルには追い風となる可能性がある。(石川)

(予想レンジ: 86.500~92.500円)

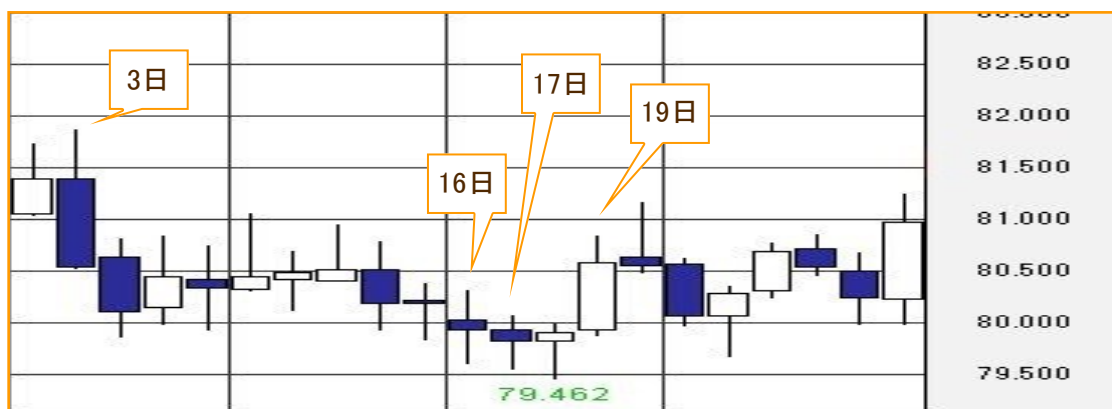
巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZドル/円 11月の推移

NZD/JPY

11月のNZドル/円相場は79.462～81.871円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.9%の下落(NZドル安・円高)となった。

この月のNZには独自材料はほとんどなく、米国の12月利上げ観測が強まる中でのドル主導の動きや、主要国株価の動きを眺めての推移で、NZドル/円には明確な方向感はないまま終わった。ただ、あまり材料視はされていないものの、NZ乳業大手フォンテラの電子入札GDTの物価指数は低下傾向、NZの経済指標はどちらかと言えば冴えない状態で、市場におけるRBNZの追加利下げ見通しは維持されていた。これが同じオセアニア通貨の豪ドルに比べてNZドルが冴えなかった理由と考えられる。



四本値

OPEN	81.063
HIGH	81.871
LOW	79.462
CLOSE	80.982

3日	乳業大手フォンテラの電子入札GDTの物価指数が前回比-7.4%となった事などを受けてNZドルは下落。さらに未明に発表されたNZ7-9月期雇用統計が、失業率6.0%(予想:6.0%)、就業者数増減は前期比-0.4%(同:+0.4%)と弱い結果となった事から、NZドル売りが強まった。
16日	朝方、前週末にフランス・パリで発生したテロを受けて下落したものの、NZ7-9月期小売売上高が前期比+1.6%と予想(+1.4%)を上回った事からNZドル買いがやや強まった。また、夕方に欧州株先物の底堅さを背景に円売りが全般的に強まると、NZドル/円はじり高となった。
17日	日経平均が後半に上げ幅を縮める中で円買いが強まると、NZドル/円は79.557円まで一時軟化。しかしそれ以上の売りは進まず、その後は底堅い推移となった。なお、乳業大手フォンテラの電子入札GDTの物価指数が前回比-7.9%となったが、NZドルの反応は限定的だった。
19日	日経平均が大幅に上昇した事を受けて円が全般的に売られる中でNZドル/円は上昇。しかし、日銀が金融政策決定会合で政策の現状維持を発表すると円買い優勢となり、上げ幅を縮小した。

NZD/JPY

日経平均

OPEN	18827.11
HIGH	19994.05
LOW	18641.22
CLOSE	19747.47

NYダウ平均

OPEN	17672.62
HIGH	17977.85
LOW	17210.43
CLOSE	17719.92

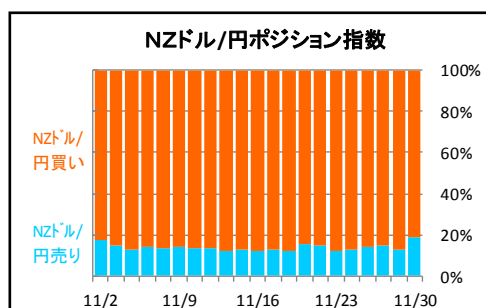
上海総合指数

OPEN	3337.578
HIGH	3678.273
LOW	3302.183
CLOSE	3445.405

NZ10年債利回

OPEN	3.299%
HIGH	3.609%
LOW	3.287%
CLOSE	3.539%

11月のポジション動向



12月の注目ポイント

- ・NZフォンテラ入札(1日、15日)
- ・米11月雇用統計(4日)
- ・RBNZオフィシャルキャッシュレート
(9日)
- ・中国11月小売売上高(12日)
- ・中国11月鉱工業生産(12日)
- ・NZ7-9月期GDP(16日)
- ・米FOMC(15-16日)
- ・日銀金融政策決定会合(17-18日)
- ・NZ11月貿易収支(22日)
- ・主要国株価、国際商品市況

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

12月の見通し

12月のNZドル相場の山場となるのは、9日に発表されるRBNZの声明だろう。月初の時点でエコノミストの事前予想では0.25%利下げし、2.50%とするとの予想が大勢を占めている。ポイントは①利下げが行われるかどうか、②声明文で今後の金融政策についてどのような見方を示すのか、の2点になる。利下げが行われた場合はその後の利下げの可能性を声明文から読み解く事になる。当面は様子見姿勢を示せば、発表直後にNZドルが下げたとしても、次第に買戻しが入るものとみる。他方、利下げした上に、今後のさらなる利下げの可能性を示したり、強いNZドル高懸念を示せば、NZドルが一段と売られる公算が大きい。一方、利下げとならなかった場合はまず、初動はNZドルが急騰する形となるだろう。しかし、声明文が前回のように追加利下げの可能性を指摘し続けるなら、そうしたNZドル高は一時的なものと考えられよう。

RBNZの金融政策発表イベントを通過した後は、為替市場全体の主役が米ドルになるものと考えられるため、NZドル/円はNZドル/米ドルと、ドル/円の綱引き相場になりそうだ。方向感が出ない割に大きな値幅に振れる、という値動きになる可能性があるため、取引には注意が必要だ。(石川)

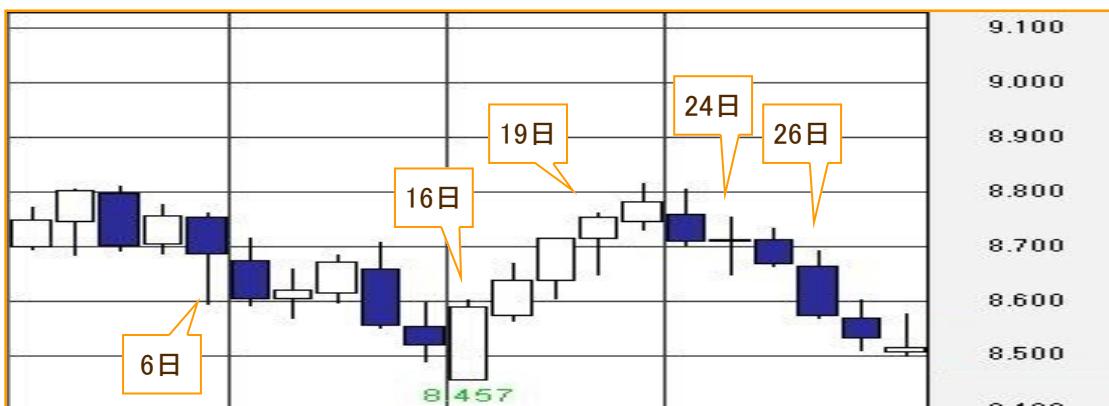
(予想レンジ: 78.000~83.000円)

ランド/円 11月の推移

ZAR/JPY

11月のランド/円相場は8.457~8.816円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.4%の下落(ランド安・円高)の推移となった。

前半のランド/円は米利上げ期待が強まる中で対ドルでランドが下落すると、軟調に推移。さらにフランス・パリで発生したテロなども下押し要因となった。その後はすぐにリスク回避ムードが緩和した事などを背景に下げ幅を縮小し、南ア中銀の利上げなどもあって一時上昇に転じたが、下旬に入ってトルコがロシア戦闘機を撃墜し、地政学的リスクが再び台頭すると、再度軟化。ただし、月としては「下落」となったが、総じて方向感に欠ける月と言える。



四本値

OPEN	8.702
HIGH	8.816
LOW	8.457
CLOSE	8.517

6日	米10月雇用統計の好結果を受けて米国の12月利上げ観測が強まる中でドル/ランドでランド安・ドル高が進むと、ランド/円も一時急落した。
16日	朝方、前週末にフランス・パリで発生したテロを受けてリスク回避の動きが強い中で8.457円まで急落して始まったものの、夕方に欧州株先物の底堅さを背景に円売りが全般的に強まると、ランド/円も反発した。
19日	南ア中銀がGDP見通しについて、2015年は1.4%(従来:+1.5%)、2016年を1.5%(同:+1.6%)に下方修正、2017年は2.1%と据え置きと発表すると、ランドは下落。しかしその後すぐ、SARBが市場の据え置き予想に反して政策金利を6.25%へ引き上げると急反発した。
24日	トルコが領空侵犯したロシア戦闘機を撃墜した事が報じられるとリスク回避の動きが強まり、ランド/円は一時下落。下げ一服後は買戻しに回る向きも多く、ランド/円は8.70円前後では底堅さを見せた。なお、南ア7-9月期国内総生産(GDP)が前期比年率+0.7%と予想(+1.0%)を下回ったものの、反応は限られた。
26日	日経平均が伸び悩んだ上、米国祝日前にポジション整理主導の動きも見られ、ランド/円は軟調だった。

日 経 平 均

OPEN	18827.11
HIGH	19994.05
LOW	18641.22
CLOSE	19747.47

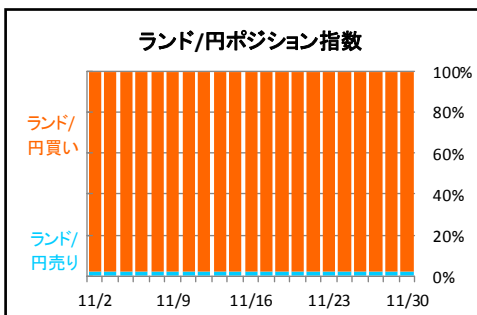
NYダウ平均

OPEN	17672.62
HIGH	17977.85
LOW	17210.43
CLOSE	17719.92

N Y 金

OPEN	1141.30
HIGH	1142.70
LOW	1051.10
CLOSE	1065.80

11月のポジション動向



12月の注目ポイント

月間指標カレンダー(外部リンク)

- ・中国11月財新製造業PMI(1日)
- ・米11月雇用統計(4日)
- ・中国11月貿易収支(8日)
- ・南ア11月消費者物価指数(9日)
- ・中国11月小売売上高(12日)
- ・中国11月鉱工業生産(12日)
- ・米FOMC(15-16日)
- ・日銀金融政策決定会合(17-18日)
- ・南ア11月貿易収支(30日)
- ・主要国株価、国際商品価格

12月の見通し

12月の南アについては、個別の経済指標を除いて、ランドに直接影響を及ぼしそうな大きな経済イベントはない。市場の関心は16日に発表される米連邦公開市場委員会(FOMC)で利上げが行われるかに関心が集中しており、ランド/円相場は、その思惑の中で動くドル/円とドル/ランドの狭間で神経質な値動きとなりそうだ。ただし、南アで為替市場に直接影響しそうな経済イベントが乏しいとはいえ、商品価格が低く、依然として経済の状況が非常に弱い中で「ランドを買う材料」に乏しい状態である事は変わりなく、ランド/円は11月と同様に、「(主体性に欠ける動きながらも)どちらかと言えば売り優勢」という状況が続くと見る。

(石川)

(予想レンジ: 8.300~8.900円)